



今月の題字
齊藤和希君
(山田北小5年)

町のわだい

埋蔵文化財展に1,400人 閑の古代史に思いをはせて

11月13日から28日まで、埋蔵文化財展「よみがえる閑の古代史」が町中央公民館を会場に開かれ、1,400人が来場しました。町教育委員会で平成14年度から3年計画で実施してきた県市町村総合補助金導入事業「埋蔵文化財保存整備事業」の集大成として開催されたもので、房の沢古墳群を中心とした遺跡出土品など300点を展示。訪れた人々は藤手刀や土器などを眺めながら、海に生きた蝦夷たちの当時の姿を思い浮かべ、古代ロマンに思いをはせていました。



たるみこし 世話人有志 力強いエールに盛んな拍手

10月31日、たるみこし世話人有志(川端隆典代表ほか4人)は大浦小学校(高橋公洋校長)に和太鼓2張りを寄贈しました。同日開催された学習発表会の中で贈呈式が行われ、川端代表は「9月の霞露ヶ岳神社例大祭で『子どもみこし』にいただいた祝い金で、太鼓を贈ることができました。未永く大切にしてください」とあいさつ。高橋校長は「運動会や陸上記録会の応援など、いろいろな行事で活用します」とお礼の言葉を述べました。続いて6年生の応援係3人による叩き初めが行われ、太鼓の音を響かせエールを披露。来場した父母たちから盛んな拍手を送られていました。

織笠地区 昆野節子さんが100歳に 長寿祝福に満面の笑み

織笠地区の昆野節子さん(明治37年生まれ)が11月3日で満100歳の誕生日を迎えました。同日、沼崎喜一町長が自宅を訪問し、長寿を祝福。「100歳おめでとうございます。町からのお祝いを持ってきましたよ。これからも長生きしてくださいね」とあいさつし、長寿祝い金を手渡しました。昆野さんは、立ったり座ったりするときに介助が必要なものの、それ以外は自力で歩行するなど元気そのもの。かくしゃくとした様子で、家族らの祝福に笑顔で応えていました。



ヤクルトスワローズ野球教室 プロ選手から練習方法を学ぶ

ヤクルトスワローズ野球教室が10月30日、町民総合運動公園野球場で開かれました。青少年の健全育成と野球レベルの向上を目的に宮古ヤクルト販売などが主催したもので、町内外から小中学生150人が参加しました。講師は、ベテランの佐藤真一外野手(39)、大船渡市出身の志田宗大外野手(25)、今年のセリーグ新人王に輝いた川島亮投手(23)の3選手が務め、走塁やキャッチボール、打撃の基本練習など約3時間にわたり丁寧にアドバイス。参加した皆さんは、プロ選手から直接指導を受けたりサインを頂いたりするなど、貴重な時間を過ごしていました。



ダイバーらが海底清掃奉仕 海の環境保全を訴える

11月14日、町内などのスキューバダイビング愛好家で組織するブルーシークリーン作戦推進本部(前川海太郎代表)では、山田漁港の海底掃除を行いました。活動には同本部のメンバーや山高ボート部員ら30人が参加。ダイバー6人が潜水して回収したごみ袋を、生徒らが堤防上に引き上げました。1時間半の作業で集まった空き缶や漁具などのごみは約40袋。作業に当たった皆さんは「ごみのポイ捨ては絶対にやめてほしい」と環境保全を訴えていました。

「ふるさとCM大賞」審査会 本町が審査員特別賞に輝く

11月20日、岩手朝日テレビ主催の「ふるさとCM大賞」審査会が盛岡市で開催されました。同CM大賞は、県内の市町村が地元をPRする30秒のテレビCMを作製し、ふるさと自慢を競い合うもので、今年で3回目。44市町村が参加しました。本町からは、山田の魅力発信実行委員会が作製した「山田町で会いましょう」を出展。作品は子供の目線で山田町の人と自然の魅力を表現したものです。審査の結果、本町は審査員特別賞の演技賞を受賞。副賞として年間50回、本町のCMが放送されることになりました。なお、審査会の模様は12月23日午後2時から同局で放送されます。

